

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373000906		
法人名	有限会社 ひかりサービス		
事業所名	グループホーム ジョイア永覚 本館		
所在地	豊田市永覚町欠畑20-1		
自己評価作成日	平成26年9月20日	評価結果市町村受理日	平成27年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&Jigvosyo_Cd=2373000906-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成26年10月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様本位を大切に、毎日楽しく安心安全で暮らしていくことをモットーにしています。地域にも積極的に出かけ交流を深める為にジョイア喫茶を始めました。ご家族様とも親睦を深めるよう連携をとり情報交換ができる関係作りに努めています。利用者様が健康で過ごせるよう主治医や看護師 歯科医師とも連絡が取れる体制でいます。スタッフは、利用者様の思いに寄り添いこれからもお手伝いさせて頂いているのです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、元々開設されている「本館ユニット」と、後から増設している「新館ユニット」で構成されており、建物の構造等が異なっている他にも、広さをはじめ、備え付けの設備等の状況も異なっており、日常の利用者の過ごし方についても異なっている。そのため、職員による日常の支援内容も、ユニット毎に検討されており、食事の内容や外出支援についても、ユニット毎に企画されて行われている。ホームでは、地域の方との交流についても前向きな取り組みを継続しており、今年度からの新たな取り組みとして、地域の方も利用できる「ジョイア喫茶」の取り組みを始めている。また、利用者の重度化が徐々に進んでいる現状があり、日常生活が困難になってきているが、利用者にはホームでの生活を楽しくでもらえるように、お菓子やフルーツのバイキング等の楽しみが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	なかなか理念の共有ができずにいる。ユニット理念もあるが、それも共有できていない。これからの課題としミーティング時に伝えていきたい。	理念については、開設時よりつくられている理念を継続して、ホームの基本理念としている。理念を事務室に掲示して、日常的に職員の目に入るようにしているが、現状、理念の振り返りの機会は限られている。	理念は、以前の運営法人のよるものを継続している。ホームの体制が変わっていることもあり、理念についての振り返りや内容についての新たな見直しに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	管理者が地域のゴミ拾いをしている。利用者様との散歩時には、地域の方より野菜を頂いたりしている。	ホームは町内会に入っており、日常的な交流にも前向きに取り組んでおり、地域の運動会等の行事にも参加している。また、月1回、ホームで喫茶を始めており、地域の方に気軽に来てもらえるように取り組んでいる。	新たに始めた喫茶の取り組みが、継続的に実施され、地域の方との交流が深まることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	以前、徘徊模擬訓練を行ったことがあるが、地域の方に発信しきれていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度運営推進会議を開いている。そこで区長さんや地域包括の方からご意見を頂きサービス向上に活かしている。	会議の際には、ホームの現状を細かく記載した報告書を用意しており、出席者に現状を理解してもらえるように取り組んでいる。また、家族の参加は難しい現状があるが、会議の内容の報告を行いながら理解を求めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市役所の方へは、いろいろな相談をしたりわからない事を聞いたり連絡をとっている。その都度、指示や指導を真摯に受け止めている	管理者は定期的に開催されている市内の介護事業所が集まる会議に出席しており、情報交換等につなげている。また、毎月、市の介護相談員がホームを訪問しており、情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	会社での研修がありスタッフは全員参加しているスタッフ間でも話しが出来るようになってきている	身体拘束を行わない方針で対応しており、法人で実施されている研修会に職員が参加したり、日常的にも管理者より注意を促している。なお、玄関の施錠はユニットで対応が異なり、新館ユニットのみ施錠を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	今、虐待の聞きとりを実施している。小さい事でも管理者や施設長に報告をあげている。言葉による制止がないよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者は会社の勉強会で学ぶ機会があるので、スタッフに確実にとおとしていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、十分に説明をし納得してもらっている。解除や改定時も説明させてもらっている。ご家族様等の質問や不安にもお答えしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様からは、面会の時に要望や意見などを聞いている。面会簿にも記入する所がある。利用者様からは、話しの中で聞いている。課題がある	ホームでは、行事を通じた家族間の交流に取り組んでおり、平日の開催であるが、複数の家族の参加が得られている。また、ユニット毎に意見箱を設置している他、毎月の便りには、担当者による報告が添えられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	現在、各リーダーが不在な為、管理者がスタッフの意見を聞き施設長に伝えている。いろいろな意見を反映できている	ホームのユニットが離れているため、管理者がユニット毎に会議を行い、ユニット間の情報の共有に取り組んでいる。また、今年度からの新たな取り組みとして、管理者による職員への聞き取りを通じた面談を始めている。	ユニットが離れて立地しているが、現状、リーダーが不在である。リーダーが両ユニットの職員会議に出席して、ユニット間のより良い連携につながることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個々の考え方を聞いて下さるので働く方もやりがいがある、環境も整ってきている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勤務がゆるす限り研修に参加している。ミーティングやカンファレンス等で勉強会を行っている。個々の力になるように勉強会を増やしていきたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	調整会議や研修において同業者や他の事業者との交流はある。サービス向上に繋がられるようにしていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	実地調査の時に本人様より要望や日常生活環境を聞き不安を解消し安心して暮らせるようにより関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族等、困っている事や不安な事、要望もお聞きしている。良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	その時に求められているニーズに対応できるようにしている。他のサービスも併用できるように対応していきたい		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	現状、利用者様と共に考えているスタッフは、増えてきているが声のかけ方がわからないと言うスタッフもいる為良い関係を築けるようにしていきたい		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月の手紙で近況を報告したり利用者様への面会時に話しをする機会を設け相談しながら、1番良い方法を考え支援していきたい		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	できるだけ馴染みの所に出かけて行けるように支援に努めているホームの行事などの時に馴染みの店を利用し途切れないように努めている	利用者の中には入居前から利用していたサロンに出かけている方や、馴染みの美容院やスーパーに出かけている方もおり、ホームからも支援を行っている。また、家族と外出して、一緒に過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	1人1人が、孤立しないように間にスタッフが入り良い関係が築けるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	今でも以前に入居されていた方のご家族様が、演奏をしに来て下さっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	1人1人の思いや希望を聞き生活に反映している、花壇を作ったりドライブに出かけたり実現できるよう支援している	職員は担当制で利用者の把握に取り組んでおり、毎月の報告書作りやカンファレンス等を通じて、職員間の共有に取り組んでいる。また、独自の様式にて「申し送りシート」を用意しており、職員間の日常的な情報交換にも取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居の長い方については、生活歴がほとんどわからず再アセスをとり、把握できるようにしていきたい		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の生活での関わりの中で、少し変化も見逃さないように努めている。報告連絡は必ず管理者にあげている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	3か月に1度のモニタリングには、できるだけ担当者が出席し課題を中執し、ご家族様からも頂きケアプランにすぐに反映している	職員が行う全体の業務計画をたて、職員の役割等を明確にしながら、介護計画の内容が実施につながるよう取り組んでいる。計画作成担当者は、職員は、日常的なチェック表も参考にしながら、3か月毎のモニタリングと計画内容の見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録や介護計画に毎日記入し申し送りノートや申し送りシートにもその非の出来事、言葉、表情を記入し情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時のニーズに沿えるように努めているが既存のサービスの方を考えると柔軟な姿勢で取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近所のコンビニや公民館、図書館などを利用したり毎日の散歩で地域の方との交流に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者の少しの変化も見逃さず主治医や看護師と連携しすぐ対応の取れる体制でいる。今までの主治医の方もみえるので、家族様にはその都度状況を伝えて受診の時に活かしている	協力医による訪問が月1回行われており、夜間や休日の時間にも連絡が可能である。家族による受診支援の際には、ホームからも情報提供が行われている。また、法人代表者が看護師でもあり、訪問した際には健康面の確認を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	常に最新の情報を報告し細かい所まで指示を仰いでいる。情報は職員間で共有している。適切な受診につなげられるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時など、付添い主治医からの説明を受けている。看介護サマリーを記入して普段の様子をお伝えしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に看取りの説明をしている、スタッフも入れ替わり看取りについての勉強会も行っていきたい	ホームとしては看取りを見据えた支援にも前向きに取り組んでおり、現状、ターミナルを前提にした支援も行われている。また、法人で管理者に対する研修会も行われており、日常的な職員へのフォローにも取り組んでいる。	ホームでは、重度になった方が増えている。家族とも話し合いを重ねるとともに、現状の取り組みが、次への支援につながることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	会社から応急手当の消防訓練に参加している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	今年は、3回の避難訓練を行ない会社の勉強会でも災害の事を学んでいる、地域の方にも文書等お知らせしている	年3回の避難訓練の際には、ユニット間の連携にも取り組んでおり、相互の連絡方法の確認に取り組んでいる。また、消防署職員による参加や、ホーム内に、水や食料等の必要な備蓄にも取り組んでいる。	地域の方との連携が深まるように、ホームで始めた新たな喫茶等の取り組み等も活かしながら、より関係が深まることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	1人1人の人格や尊敬を大切に声掛けを行っている、不適切な声掛けのある場合はその場で指導している	職員による利用者への対応については、管理者より日常的に注意を促すように努めており、気になった際には声をかけ、注意を促している。また、法人の新人研修の中には、職員の接遇面に関する研修が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定できるように思いを聞いている、ご自分で表せない方はアイコンタクトやしぐさで思いを組みとるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1人1人のペースに合わせた支援を行っている。行きたい所や買いたい物があれば一緒に出掛けている。外出予定のある方など一緒に服を選んだりしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	1日おきの入浴で清潔を保持し、髪留めなどをしたり服選びも一緒に行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日、食事の準備や片付けなど一緒に行い、希望メニューもお聞きし取り入れている	管理者が作成した大まかなメニューから、ユニット毎で職員が工夫を加えており、利用者も調理や片付け等に参加している。行事に合わせた食事やお菓子やフルーツのバイキングも行われている。また、ミキサーや刻み等の食事形態の提供も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分量のチェックし1人1人の状態を把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	難しい方もみえるが、できる方には声掛けをし毎食後に口腔ケアをして頂いている。歯科往診も利用できるが今は、利用している方はみえない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握しトイレ内で、できるような支援している。オムツの方には、毎回の陰洗を行い清潔の保持に努めている	全員の排泄チェックへの記録や申し送りシートも作成しながら、利用者の排泄状態の情報の共有につなげ、トイレでの排泄に取り組んでいる。また、適切な排泄につなげるため、センナ茶を活用する取り組みも行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事の時など乳製品を提供したり水分を多くとるようにしている。運動面でも散歩や体操を取りいれている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	利用者様ペースで入浴できるようにしている夜、入りたい希望のある方は職員見守りの中入浴される。個々のリズムを大切にしている	入浴については、1日おきの方の他にも、毎日入っている方がいる。時間についても、夜間の時間にも対応するように取り組んでいる。また、重度の方には、職員複数体制で介助している他、季節に合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室での過ごし方も考えている、昼寝をされる方は空間や光や音などに配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ほとんどの方が薬を飲んでいる。薬の変更時などは説明させてもらっている。職員は状態の変化を見逃さず薬についての理解に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	1人1人の生活歴から何が楽しみかを見つけ、日々の生活の中で役割りや嗜好品、興味について知り気分転換ができるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	全体の外出は難しくなってきたので、少人数で外出をしている。馴染みの所や地域の行事にも参加させて頂いている	ホームは、ユニット毎に利用者の状態等が異なる現状もあり、日常的な外出頻度には差があるが、両ユニットとも、月1回以上の外出支援に取り組んでいる。また、少人数による外出や、時には外食に出かけたり、弁当を持って外出することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物時など個人の財布をもっていき、買いたい物をご自分で支払ってもらっている。いくらあるか気にされる方には、その都度金額をお伝えしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	現状、ご自分で手紙を書く方はみえないが、年賀状をだしたり、電話は希望があればかけて頂いている、		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共同の場合は、季節感を大切に、居心地のよい空間作りを行なっている。目印などわかりやすく、不要な物は取り除いている。	ホームは、「本館ユニット」と「新館ユニット」で基本的な構造等が異なっており、ユニット毎に、広さ、採光、寛げる空間の確保等、それぞれに特徴がある。また、ホームの庭が広いため、畑を作ったり、新館ユニットには広いテラスが設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	女子会など気のあった方同士でテーブルを囲みお話しされている。共有の空間の場での1人1人の居場所の工夫をしていきたい		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使いなれた家具などを持ってきて頂いている。居室で過ごされる方は少ないが、ご家族様やご本人様と相談しながら居室作りを行っている	居室についてもユニット毎に構造が異なっており、ベッドの備え付けや洗面台の有無の違いがある。なお、利用者の希望等により、自宅から馴染みの物や好みのレイアウトが行われている取り組みは、ユニットで共通している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレ、風呂、廊下など手すりがあり、わかりやすい目印で場所の表記している。1人1人のできる事に着目しゴミ箱やペーパータオルの場所は、変えずに同じ所に置いている		